

「伝統を守りたい」 子どもたちのゲーター祭



女竹を持って待つ町のみなさん



高く上がるアワ



サバ取りを待つ児童ら



ゲーター祭

神島の氏神である八代神社の神事で、大漁と平穏無事を祈願する約700年の間神島で続く伝統の祭。
元旦未明、東の空が明るくなるころに、太陽に見立てた白いアワを女竹で突き上げて落とす。アワがより高く上げれば上がるほど豊漁といわれる。

アワを持って東の浜へ



アワ持ちの到着を待つ児童



サバを取った福男



八代神社でサバを奉納し、復活を祈願

太陽に見立てたアワを女竹の剣で突き上げて落とすアワの剣で突き上げて落とされた後、サバと呼ばれるご神体が児童らの中に投げ込まれ、それを手にした福男が八代神社へ全速力で走って向かい、奉納しました。
福男となった小久保凱生くんは「大漁とゲーター祭の復活を願った」と笑顔で話してくれました。

3月2日、神島町で子どもゲーター祭が行われました。毎年元旦に行われるゲーター祭が、人口減少や高齢化による担い手不足で中止されたことを受け、何とかしたいという思いから神島小学校の子どもたちが企画したものです。
白装束に身を包んだ鉢巻き姿の児童らは、グミの木を束ねて白紙を巻いて作った直径1.5メートルほどのアワと呼ばれる輪を持って、八代神社の鳥居前を出発しました。アワ持ちの児童らは「ヨイヨイヨイヨイ、ヨイサヨイサ」と掛け声を出しながら路地を練り歩き、浜の入り口で待っていた100人以上の町のみなさんが女竹の剣でアワをたたいて出迎えました。